

第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐる 平成18年9月19日

講師 佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日

講師 久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日

講師 鷺沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日

講師 清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター

わいがやサロンスペシャル
スポーツによるコミュニティ再生 平成19年2月22日

講師 二宮 清純さん スポーツジャーナリスト

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日

講師 虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり

ばていお大門・ToiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師 竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日

講師 木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日

講師 荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/
「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日

講師 松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ピオトープ」/
長野市をピオトープネットワークシティに 平成19年11月14日

講師 松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

わいがやサロンスペシャル
長野・考/長野の明日を話そう 平成20年2月14日

講師 中馬清福さん 信濃毎日新聞主筆

第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日

講師 浜このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日

講師 角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれ

—変化に対して前向きになることの大切さ— 平成20年8月19日

講師 針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日

講師 水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野バルセイロー 優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日

講師 バドウ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日

講師 町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日

講師 中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践
—宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる— 平成21年6月3日

講師 塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日

講師 小出陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化
—漬物の新しい風— 平成21年9月2日

講師 宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日

講師 志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしょ/代表理事

第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日

講師 薩川了洋さん AC長野バルセイロ新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日

講師 石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日

講師 新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

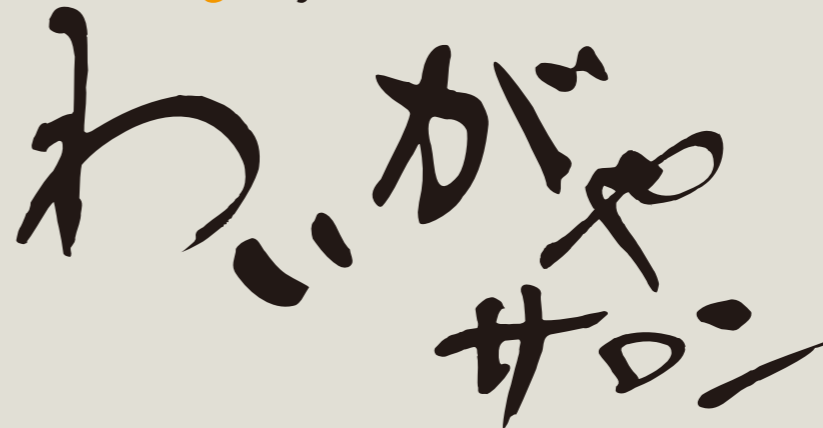
第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日

講師 越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属



NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail: nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 26
2010.11



NPO法人 長野都市経営研究所

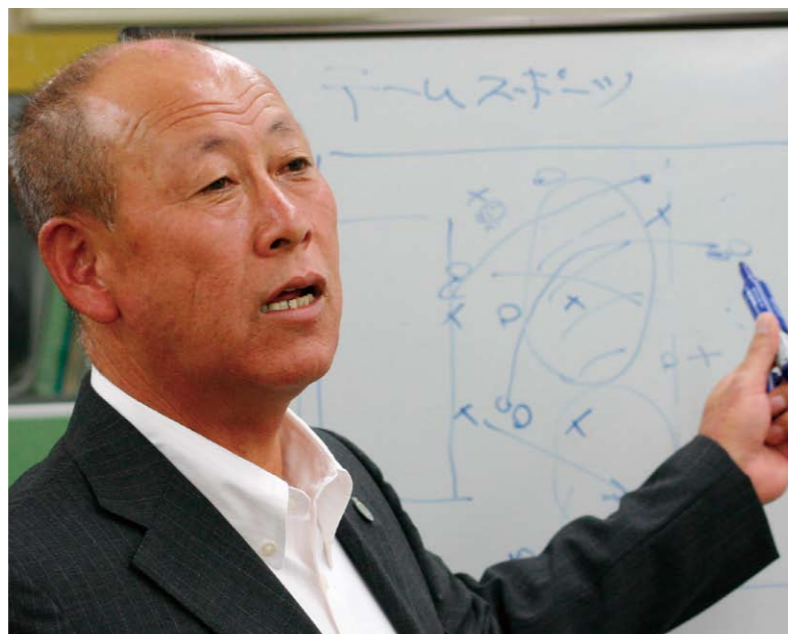
第26回 Go to J ～“J”を長野に— いよいよ地域決勝大会！～

平成22年10月25日(月) 18:00～20:30

講師／鈴木政一さん 長野パルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911

10月下旬のサロンは、秋を愉しむ間もなく冬に突入しそうな雨の晩。ヤマハ発動機サッカー部＝ジュピロ磐田一筋、かたい采配でチームをJリーグトップに育て上げ、9月から長野パルセイロ強化本部長に就任した鈴木政一さんをお招きしてお話をお聞きました。



すぎき まさかず 1955年生まれ、山梨県出身。1977～84年、ヤマハ発動機サッカー部在籍、その後、コーチ、監督、スカウト等を経験。ジュピロ磐田監督としてJリーグ初の完全制覇(2002)、年間最優秀監督賞2度受賞。JFA公認S級コーチ

野球少年からサッカー少年に

私の子供時代は日本中、野球に夢中…私も長嶋選手に憧れた野球少年でした。サッカーに転じたのは御坂中3年からで、石和高校に進み(今は山梨県でサッカー校といえば韮崎高校ですが当時は石和がベスト4)、負けず嫌いですから、他選手に負けたくない一心で人より練習。国体選手に高校生から一人選ばれたりもしました。高3に親父が脳溢血で倒れ、就職を考えたものの日体大から「絶対来い」と引っぱり、2年生から試合に出させてもらい、主将を務めて全国大学選手権で優勝。トヨタ(現・名古屋グランパス)から声がかかったんですが、当時レベル的には劣っていたヤマハ発動機サッカー部の杉山隆一監督がおいでくださってサッカーへの熱い思いや「このチームを頂点にもっていくんだ」という夢を語ってくれましてヤマハに入部。DFのポジションで2年目に東海リーグ優勝、上へ上へと夢へ近づけ、1983年、天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝に貢献することができました。

社員として務めた選手、コーチ、総監督、スカウト等々

磐田市(静岡県)は人口17万人。オートバイメーカーのヤマハ発動機や自動車メーカーのスズキの企業城下町ですが、もともとは別荘・コテージなど組織維業が地場産業の町でした。

ヤマハ発動機に入った私は、パルセイロの選手と同じように午前中は社員として仕事をし、午後からサッカーという生活でした。資材部に属していましたから、欠品があったときなど、練習を終えてから名古屋まで届けて帰ってきたりもしました。

あるとき(1982年)、高校のときからキャプテンを務め、選手分析をするのが常になっていた私がスゴイと認める選手が入ってきて、女房に「現役を引退し、その後はヤマハの企業に入る」と伝えました。幸運にも天皇杯(上記)に出られて引退できたのですが、会社から「コーチになれ」。それからはサッカー・オンリーでやってきました(昨年12月をもってヤマハ発動機(株)勇退)。



サッカーとは、予測をもって状況を脳で最善策を即断し、プレイに移すチーム・スポーツ

フロントからも現場からも「Jをめざしたい」という純粋な思いが伝わってきてオファーをお受けしました。9月から2試合見に行き、パルセイロはスピーディで攻撃的で自分が好きなチームだと思いました。驚くほどイケイケの攻撃的サッカー(!)なのですが、せっかくボールを奪って、いざ攻撃になるとボールとの関係しか見てなくて動き出してしまいます。(視野の広さに欠ける)

サッカーは目的に対し判断材料をもって一番いい方法を考えて、予測のもとに決断をして、プレイに移さなくてはなりません。ところが、パルセイロの選手たちは見ることに欠け、対ボールとの関係のみでプレーしているため、チーム全体のバランスがなく、レベルの高いチーム、しっかり守るチームに勝つことができない。点をとって勝ってきたチームで、1点とられると弱い。点をとるためには敵味方を見つつ、見るだけではダメ、考える。バランスを保ちつつスルーパスしていくことです。

個々の選手はいいものをもっているから、ミーティングでボードを使って彼らに分かるよう説明し、ピッチで当該プレイを止めて、脳に刷りこませ、進化させていくつもりです。何より「サッカーはチーム・スポーツなんだ」という自覚が一人ひとりに必要です。

選手一人ひとりの能力を最大限に引き出すのが指導者の仕事。企業も同じ。

私はどちらかというと悩むタイプだったんですね。大学時代は240人の選手がいるなかでの主将で、監督からの要望、選手からの要望の板ばさみになりました。中間管理職の苦しさ…大勢の意見を聞いて、どこかで決断しないとイケない。でも、トップはあまり悩んではいけない、ということをやまハおよびジュピロで学びました。

ヤマハで選手を辞め、コーチを命じられたときは、当時の長澤監督時代で総監督としてサポートすることを杉山さんが欲していたのだと思います。サテライト(若手)の面倒も2年間やりました。ジュピロの監督を引き受けたときは中山雅史(ゴン)に「マサくんが監督やるの?」なんて酒の席で言われもしましたが、システムやメンバーを変えずにトレーニングメニューを変えることで選手たちを100%の力にもっていき、残り5試合を4勝1敗で終わらせ、少しづつ信頼関係を持つことができました。

コーチ、監督、スカウト…いろんな仕事をやらせてもらえ、それぞれ立場は違いましたが尽きるところ、選手をよく見て、その選手のよいところを最大限引き出し、レベルアップさせながら勝たせる。選手が自分で「あ、進歩したな」と納得する場面をつくるのが、私の仕事だと思ってきました。

選手の指導法は企業も同じだと思います。1.自分を正しく理解する。2.なおかつ選手(部下)を正しく理解する。3.相手チームを正しく理解する。人間、性格は変えられないが、意識すれば行動は変えられます。

スタートのミーティングがいちばん大事です。薩川監督と共通の認識に立っていないと勝てないからです。最短でJ2に上げることが自分の使命と思っていますので、パルセイロ・チームの応援をよろしくお願いします!!

フロントの鷲澤幸一さんが進行を務めてくれました。トップチームはいよいよJFL昇格をかけた全国地域サッカーリーグ決勝大会に臨みます。11月21日(高知)からのスタートにエールを。

お話を聞きまして

鈴木さん(指導者)の、人と状況を見る眼(分析力)、N-BOXを採用したような(システム構築)、相手と(直接話し合う)ことが何より大事、すなわち勝負強さを生む…という論に、うなずかされました。(M)



AC長野パルセイロは、第36回北信越フットボールリーグ(4～9月)で2年ぶりにリーグ制覇。次いで、第46回全国社会人サッカー選手権大会(10月、山口県)では準優勝した